

見守る目・育む芽 37

- P1 青少年の健全育成セミナー
- P2 青少年の健全育成セミナーインタビュー
- P3 平成29年度「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動の取組み
- P4 お知らせ「家庭の日」「県民会議の取組み」について

山形県では、平成25年度から“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動を展開しています。

＜運動の基本方針＞

- 学校、家庭、地域が連携し、みんなでいじめ・非行を許さない社会づくりをすすめていこう。
- いじめを受けて悩んでいる子どもたちが相談しやすい環境をつくっていこう。



青少年の健全育成セミナー

～いじめ・非行の未然防止に向けて～

講演

講師 全国Webカウンセリング協議会理事長 安川雅史氏

テーマ **スマホ時代の子どもと向き合う**
～Twitter・LINE・スマートフォンの危険性 被害者にも加害者にもならないために～

事例検討会

県内の各地区から、それぞれ実践活動事例の発表を行い、事例の検討等を行いました。



ました。さの訴え

10月22日、庄内町文化創造館「響健全育成セミナー」を開催しました。安川雅史氏を講師に迎え、「スマホ時代の子どもと向き合う」ことをテーマに講演が行われました。安川氏はTwitter、LINE、スマートフォンなどを通して、実際に起こったSNS上のトラブルや事件などを挙げながらその危険性を投げかけ、子どもが事件に巻き込まれないため、命を守るためにフィッシングをかけることの重要性を話されました。また、大人が子どもと向き合うことで子どもの異変に気づくこと、子どもにも自分の思いを伝える家族の時間を大切にする大切さを感じました。

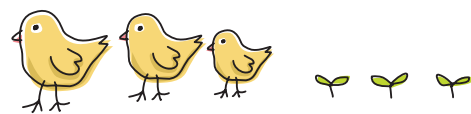
最後に、コーディネーターの遠田氏が「各地域で持っているそれぞれの地域資源をどのように子どもたちにつなげていくかが、地域の大人の知恵の出どころではないか」と検討のとりまとめを行い、会場に集まった人たちが皆で、子どもたちのために大人ができることを考え、活動していく意識を一つにしました。



いじめ・非行をなくそう
やまがた県民運動

事例検討会では、村山、最上、置賜、庄内、4地区の取り組みが発表されました。子どもと大人が意見交換するワークショップ、昔遊びや餅つき体験、あいさつ運動や高齢者とのふれあい活動、高校生が吹奏楽や和太鼓、書道パフォーマンスを披露するイベントなど、各地区で特色のある活動が発表されました。その中で「世代や立場を超えた交流ができた」「青少年の体験の場、地域の交流の場として今後も続けていきたい」「子どもたちが自主的に発案し、動き出す仕掛けをつくっていききたい」といった成果や感想が挙げられました。

お知らせ



ご意見・ご感想をお寄せください

●山形県子育て推進部若者活躍・男女共同参画課

☎ 023-630-2101 FAX 023-632-8238

毎月第3日曜日は「家庭の日」

1月からのテーマ

- 1月「新しい年を迎え、一年の計画をたてる」
- 2月「寒さに負けない心と体をつくる」
- 3月「学期の節目を迎え、一年間の子どもの成長を祝う」

子育てにおいて家庭が果たす役割は大変重要です。そこで家族のきずなを大切にする日として、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、併せて月別の取組みテーマを提案しています。

県民会議の取組み紹介

平成29年度
山形県青少年育成県民会議総会

平成29年5月30日に県庁講堂において平成29年度総会を開催しました。議案は全て原案通り可決承認され、平成29年度活動方針、事業計画が決定しました。また、議事終了後「子ども・若者の＜居場所＞の意義～放課後子ども支援と関わらせて～」と題して、山形大学地域教育文化学部准教授安藤耕己氏より講演をいただきました。

平成29年度「明るいやまがた、夏の安全県民運動」出発式



「明るいやまがた。夏の安全県民運動」を展開するにあたり、本運動を広報するとともに、県民総ぐるみの運動を推進していくことを確認合うため、平成29年8月1日に出発式を開催し、パレードを行いました。

第56回
山形県少年の主張大会

第56回目となる「山形県少年の主張大会」を平成29年9月23日に山形テルサで開催しました。県内4地区のブロック大会から選出された15名の中学生が参加し、家族や学校生活をテーマに熱い思いを発表しました。最優秀には「私の町・私の夢」と題して発表した遊佐町立遊佐中学校3年齋藤愛彩さんが選ばれました。

平成29年度
山形県青少年健全育成県民大会

平成29年10月22日に「平成29年度山形県青少年健全育成県民大会」を開催しました。県内から青少年育成関係者約450名が一堂に会し、県民運動の一層の拡大と充実を図るため、更なる実践活動への決意を新たにしました。

申し込み先

山形県青少年育成県民会議事務局
TEL : 023-630-2101
FAX : 023-632-8238



☆現在の会員数(二〇一八)
(平成29年9月末現在)
会員の皆様には会報をお送りするとともに特別会員は会報及び総会資料に賛助会員は総会資料にお名前を掲載させていただきます。

☆会員の種類と会費
・特別会員(二〇三万円)
・賛助会員(二〇五万円)
・団体会員(二〇千円)
・個人会員(二〇千円)

山形県青少年育成県民会議
入会のご案内
当会議では、次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、「大人が変われば子どもも変わる」県民運動や「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動を展開しています。活動や趣旨にご賛同ご協力いただける新規会員の方を募集しております。機関誌をご覧になつたにている皆様、ぜひご加入くださるようお願いいたします。

平成
29
年度

“いじめ・非行をなくそう” やまがた県民運動の取組み

平成29年度 いじめ防止 優秀標語

「いじめ防止」標語を募集したところ、県内の小・中学校から計53,116件の応募があり、下記4作品が見事優秀賞に輝きました。作者は10月22日に庄内町文化創造館「響ホール」で開催された青少年健全育成県民大会において表彰を受けました。

村山
地区

ぼく決めた 見て見ぬふりは もうやめる

寒河江市立高松小学校 5年 工藤 昂也 さん 作

最上
地区

「うんとこしょ!」「どっこいしょ!」 みんなでぬこうよ いじめの根っこ

最上町立向町小学校 1年 大沼 叶夢 さん 作

置賜
地区

「いっしょにやろう」のひとことで かわる未来がきっとある

南陽市立中川小学校 2年 鈴木 優斗 さん 作

庄内
地区

忘れない いつも心に 思いやり

鶴岡市立朝陽第二小学校 4年 加藤 千紗 さん 作

児童の性的搾取等の防止に関する研修会



9月19日、県警察学校において、深刻化している児童ポルノの製造や児童買春をはじめとする児童の性的搾取等（子供の性被害）防止対策を推進するため、警察庁少年課性的搾取対策官天野賀仁警視正を講師に招き、「児童の性的搾取等の現状と課題」に関するご講演をいただきました。今後、子供の性被害の現状を共有し、官民一体となった取組みを一層推進することとしています。全国的にインターネットのコミュニティサイトを利用して性被害に巻き込まれる児童が増加しています（その中でもサイトにアクセスした端末はスマートフォンが大半を占めています）。ネットの利用方法について家庭内でルールを作り、フィルタリングを設定するなどして子供の性被害防止に取り組みましょう。

平成29年度 いじめ・非行をなくそうポスター

“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動の周知・啓発を図り、また「いじめ防止」優秀標語を広く県民の皆様にご覧いただくために、県内の高校生を対象にポスターデザインを募集し、作成しました。



いじめや孤独を感じているピエロと手を差し伸べる女の子を、かわいい人形で表したデザインです。

学校法人九里学園 九里学園高等学校1年 山田 亜未 さん 作



青少年の健全育成セミナー インタビュー



講師

やすかわ まさし
安川 雅史 氏



昭和63年大学卒業後、北海道立の高等学校、私立高等学校に勤務。平成18年に全国webカウンセリング協議会理事長に就任。ネットいじめ・ひきこもり・少年犯罪問題に取り組む。全国各地で講演会や研修会を行い、受講者数は40万人を超える。



コーディネーター 事例発表者



写真左から

藤田 浩司 氏（村山市青少年育成市民会議幹事）村山地区

小松 功 氏（真室川町青少年育成推進員・代表）最上地区

遠田 健一 氏（県庄内教育事務所エリアスクールソーシャルワーカー／酒田人権擁護委員協議会会長）コーディネーター

齋藤 芳明 氏（前米沢市立南原中学校父母と教師の会会長）置賜地区

大江山 守 氏（鶴岡市青少年育成市民会議／鶴岡市教育委員会青少年育成センター主査）庄内地区

今回のセミナーは、いじめや非行の未然防止に向けて、各地区の事例検討会が行われましたが、コーディネーターとしてどのような感想を持ちましたか？

コーディネーター 遠田 健一 氏

地域の人材というのは、いわば資源なんですよ。いい資源をいっぱい持っているところは、それを活用すればいいものを出力できます。出力するための人集め、材料集めを今日発表なさっている方たちが担ってくださっているわけで、代表として発表してくださったことが本当にありがたかったし、今日の発表は子どもたちの育成に関わる皆さんの役に立てたのかなと思います。

講師からのメッセージ

今や子どもから大人まで、幅広い世代が活用しているスマホ。しかし、便利だからこそ依存性も高く、親自身が友達とLINEのやりとりをしながら食事をしているケースもあります。子どもは親の行動を『お手本』としてよく見ていますから、親がそんな行動をしていては、子どもに注意しても『ママだってやってるじゃん』と反発されて示しがつきません。『ご飯の時はスマホ持ち込まずに、家族で顔を合わせてご飯食べようね』と決めて、親子のコミュニケーションの時間を確保しましょう。

親子のコミュニケーションの時間があると、子どもの異変やSOSにも気づくことができ、いじめやトラブルに早く対処できます。

Q 活動を通して日々感じていること、今回他地区の発表を聞いて感じたことなどを教えてください。

事例発表者 藤田 浩司 氏

A 他の地域の方も考えていることはおおよそ共通しているというのが第一印象です。私が学生の頃は、先輩から教えてもらったことを後輩へ教えるのが普通で、そういったことが、高齢者から子どもまで広がり、連綿とつながっていくことが重要だと思います。地域の皆様に世代間交流の重要性をもっと浸透させていけるような仕掛けを考えていきたいですね。

事例発表者 小松 功 氏

A 子どもたちもその親も全体的に人数が少なくなり、活動が大変になってきていると感じます。我々は子どもたちと話し合いをするだけでなく、高校生と町のイベントに参加したり、町内施設の清掃をしたり、実際に何か行動をしようと活動を進めてきました。今日のセミナーで実際に子どもと一緒に活動することが、間違っていなかったと再確認できましたね。

事例発表者 齋藤 芳明 氏

A 子どもとその親の数が少ない中で行動するには、大人に無理にでも職を与えて、引っ張り込んでやっていく必要があります。触れ合いのきっかけをつくるために、大人が提供して、子どもに参加してもらい、その子どもが大人になったときに、またそういう環境を子どもに与えていく。そういう連鎖反応をずっとつないでいくのが非常に大事だなと感じました。

事例発表者 大江山 守 氏

A 少子高齢化に加え若者の都心への流出により地域の衰退が懸念される中、これらを食い止めるためには、子どもたちの愛郷心の醸成が大切と感じています。青少年ステージパフォーマンスを通して、今後、高校生が、地域と深く結びつき、郷土を愛し、将来の担い手として活躍することを期待したいと思います。